

「通知票」について

1 達成度を見る「絶対評価」

現在、公立の学校では生徒の成績を評価する方法として、この「絶対評価」の方法がとられています。これは、他の生徒の成績を考慮に入れず、あらかじめ設定した到達すべき目標に対して、どこまで到達できたかで評価する方法です。

2 通知票は子どもたちの学習の取り組みとその成果を表わしています。 土中学校の通知票は、次のように表記されています。

通 知 票 の 見 方

評価の観点

- ◎ **観点別評価**
 - A:十分満足できる
 - B:おおむね満足できる
 - C:努力を要する
- ◎ **5段階評定**
 - 5:目標を十分に達成した
 - 4:目標を達成した
 - 3:目標をほぼ達成した
 - 2:目標の達成にあと一歩である
 - 1:目標の達成のために努力を要する
 - /:評定不能
- ◎ **総合的な学習の時間**

学習活動をもとに、学習・活動のねらいに照らし合わせて評価する。

〈評価の観点〉

 - ・課題発見力
 - ・課題追求力
 - ・情報活用力
 - ・表現力
 - ・コミュニケーション能力
- ◎ **特別の教科 道徳**

〈評価の観点〉

 - ・道徳的心情
 - ・道徳的判断力
 - ・道徳的实践意欲

活動の状況

○:十分満足できる △:努力を要する

これらがすべて、「絶対評価」の方法で成績が示されます。

(1) 各教科の評定について（観点別評価と5段階評定）

各教科（9教科）の評定（5，4，3，2，1）は、その左横にある各教科の観点別評価（A，B，C）によって決定します。

【例】次のように通知票に表記されています。

9 教 科	知識・技能	B	3
	思考・判断・表現	B	
	主体的に学習に取り組む態度	B	

観点別評価は、上の3つの観点で構成されています。それぞれの観点において、「A」は十分に評価できる、「B」はおおむね満足できる、「C」は努力を要するとあります。そこで、学習内容に応じて、おおよそ、その観点の目標に対する達成率が80%以上の場合に「A」、40%以上80%未満の場合は「B」、40%未満の場合は「C」とつきます。次に、この達成率をはかる材料ですが、それぞれの観点には教科や学習内容によって、様々な評価の材料が用意されています。

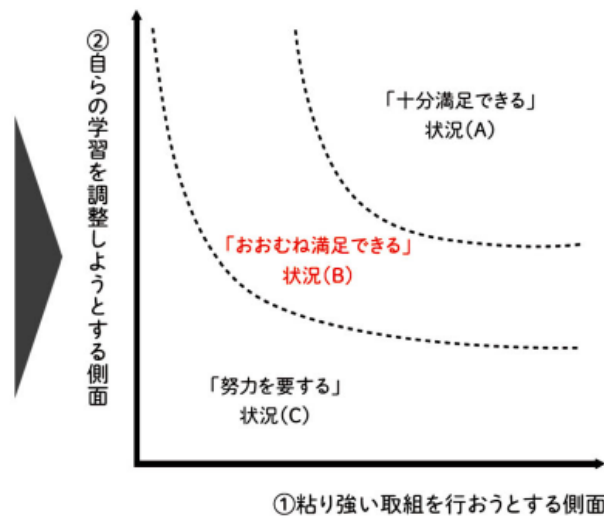
- “知識・技能” 知識を問う小テスト、定期テストにおける知識・理解に関する問題、調べ学習の調べ方、資料の取捨選択の様子、調べ学習で分かったことのまとめ方、テストにおける資料を読み取る問題
 - “思考・判断・表現” 調べ学習の発表資料の作成、理由や根拠を問う課題、テストにおける説明問題、レポートやワークシート、ノートのまとめ方、文章で回答する問題
 - “主体的に学習に取り組む態度” ノートやレポートなどの記述評価、授業中の発言、教師による行動観察、生徒自身の自己評価や相互評価、振り返りカード 等
- これらの材料により、それぞれの観点で「A」「B」「C」という形で評価されます。

※ “主体的に学習に取り組む態度” についての評価

「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価することが求められる。

○これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。



学習を調整しようとする側面と粘り強い取組を行おうとする側面の評価のために、振り返りが重要になります。また学習を調整しようとする側面は、他の観点と密接に関わっています。

それぞれの観点で示された観点別の評価の組み合わせにより、次のように各教科の評定が決まります。

<<基本的な観点別評価の組み合わせと評定>>

観点別評価の組み合わせ	評定
AAA	5
AAB	4
ABB BBB BBC	3
BCC	2
CCC	1

◎評価の組み合わせは、必ずしも通知票の記載順番ではありません。

以上のことから、各教科の評定は、観点別評価が基になります。

また、後期の通知票には、各教科の年間の評価・評定も表記させていただきます。

年間の観点別評価は、1～3学期を基に評価しますが、【B（達成率が40%以上、80%未満と幅が広いため）】以下になる場合があります。

(例1) 1学期：A 2学期：A 3学期：B 年間：A
 (90%) (90%) (75%) (平均85%)

(例2) 1学期：A 2学期：A 3学期：B 年間：B
 (80%) (80%) (50%) (平均70%)

(例3) 1学期：A 2学期：B 3学期：B 年間：B
 (80%) (50%) (50%) (平均60%)

(例4) 1学期：A 2学期：B 3学期：B 年間：A
 (95%) (74%) (74%) (平均81%)

(2) 総合的な学習の時間の評定について

総合的な学習の時間については、文章表現で評価を示しています。各学年の学習活動のねらいに対して、その生徒がどのような学習の取り組みをし、成果を上げたのかが簡潔に示されています。

(3) 特別の教科 道徳

道徳の評価は、文章表現で評価を示しています。授業での発表やプリントの自己評価などから生徒の変容を簡潔に示されています。

(4) 行動の状況について

学校生活全体を通して、生活面に関しての評価です。各評価の観点に対して、優れているものに「○」、努力を要するものには「△」で示しています。

3 通知票を見て、「どう伸ばしていくか」を考える。

通知票は、誰かと比べて「良かった。」とか「悪かった。」を見るためのものではありません。学校と家庭が協力して、子どもたちをより良い方向に育てるものです。絶対評価の良いところは、一人ひとりの学習状況がどの程度であるかをはかれることです。努力の成果を認めてあげたり、またどんなことを頑張っていけばよいかを親子で一緒に考えたり、話し合ったりして、今後の生活に役立てていただければ幸いです。

また、通知票には担任による総合評価として、生徒の生活面や学習面の様子、優れている点や長所、進歩の状況等を表記してあります。大切なのは「生きる力」（「確かな学力」＋「豊かな心」＋「心身ともに健康な体」）ですから、定期テストの点数だけでなく、子どもたちの学習および生活全体を把握し、ご家庭でも自ら学ぼうとする意欲がさらに高まるように励まし、アドバイスをしていただければと思います。

4 その他

- ・通知票の記載内容について

	教科の評定	係活動	道徳	総合	総合所見
前期	9教科	前期	なし	なし	なし ※面談実施
後期	9教科	後期	○	○	○

- ・総合所見への記載がない学期について
前期の分は、面談を実施いたします。
- ・道徳・総合的な学習の所見について
年間評価として、文章で表記いたします。